

亀戸七福神巡りへのお誘い

出発地点：JR東 総武線 亀戸駅 北口

出発日時：令和8年1月6日（火）13時00分

予備日 1月7日（水）

行 程：約3時間

（実質2時間半程度のウォーキング）

到着地点：JR東 総武線 亀戸駅（自由解散）

- 参加希望者は各地区常任幹事または田辺まで
(飛び込み参加もOKです。定刻までお待ちします)
- 当日の実施が微妙な場合は9時までに田辺から連絡いたします
- 各自準備品 保険証、常備薬、飲み物 etc.



亀戸七福神の由来

亀は、古くから福德長寿としてあがめられてきた。

亀戸七福神では、その亀の甲に乗りさまざまなご利益を授けてくださる亀甲七福神の絵あわせが行われている〔色紙・絵あわせ台紙・御神体（お姿）のお受けは1月7日まで（有料）。ご開帳は1月15日まで行われている〕。

亀戸は昔、亀の形をした小さな島で、亀島と呼ばれていた。

附近には、北に向島（寺島）、南に大島、西に柳島等の名称が多く、葦の海辺が堆積して出来た亀島にも集落が形成されて亀村となり、周りの島々と陸続きとなって耕地となり、後に臥龍梅庭内にある亀ヶ井（現存せず）と混同され亀井戸と呼ぶようになり、そこから変化して亀戸になったと言う。

大石真人著『七福神めぐり』昭和56年刊。

本資料は前掲書及びホームページ等から引用して作成しました。



番外編（亀戸水神宮）

かつては水神森と呼ばれた森があったというが、都市化の進展によりその面影は残っていない。



亀戸水神社は、当地が開発されたとき、水防のために堤防を築き、その堤上に水神を鎮祭して水害が起こらないよう祈願したことになると伝えられる。



寿老人・常光寺



737年（天平9年）、行基によって開山されたといわれている。行基作とされる阿弥陀如来像を本尊としている。1544年（天文13年）に曹洞宗に転宗した。

番外編（神戸石井神社）

嵯峨天皇の御代、弘仁2年9月に弘法大師により発現せられたる社と伝えられる。

亀井戸郷中団子の鎮守社。

俗に「おしゃもじ稻荷」とよび、咳の病をなおす神として信仰され、神社からおしゃもじ（飯杓子）1本をかりてきて、自宅でこれを神体として拝み、病が治ればお礼に新しい飯杓子1本をそえて、もとの飯杓子とともに2本を神社に返す。



弁財天・東覚寺



この寺は、安土・桃山時代の開祖で、江戸時代から亀戸不動として有名な不動尊を安置しており、本尊は大日如来。

弁財天は門を入ってすぐ右に安置されている。

番外編（吾嬬神社）

境内には五つの力石が置かれ、その奥には吾嬬の森がある。
吾嬬森碑と安永二（百十八代後桃園天皇・第十代家治時代
～1773）年の狛犬は一見の価値がある。



恵比須、大黒天・香取神社

天慶の昔、平将門が乱を起こした際、追討使・俵藤太秀郷（たわらとうたひでさと）はこの香取神社に参拝し戦勝を祈願しました。

乱はめでたく平定することができ、神恩感謝の奉賓として弓矢を奉納、「勝矢」と命名されました。この古事により、1000年の時を経て今も「勝矢祭」が守り伝えられています。

歴代の天皇をはじめ源頼朝、徳川家康などの武将達、また剣豪・塚原ト伝（ぼくでん）、千葉周作をはじめとする多くの武道家達の篤い崇敬を受け、武道修行の人々は香取大神を祖神と崇めていました。

このような由来から、亀戸 香取神社は「スポーツ振興の神」として、スポーツ大会・試合の勝利を願う多くの参拝者が訪れ篤い祈りを奉げています。



毘沙門天・普門院



応永28（1421）年建立の石燈籠があり、歌人・伊藤左千夫の墓がある。

この名刹は元和2（1616）年橋場（台東区）から現在地に移る際、梵鐘を大川（隅田川）に沈めてしまったことから、鐘ヶ淵の地名が生じた。とされている。

参道右手にはイチョウとメタセコイヤの大木が立ち並ぶ。茂った木々が異空間の雰囲気を感じさせる場所だ。

福禄寿・天祖神社

推古天皇御代、聖徳太子作のご神像を御神体として祀る

この地域は、埋め立てが進められる以前、湾の奥にあたり小島が点在する様な所でした。近所の地名に大島・京島・向島などの島の付く地名が多いのはこのせいで、そのひとつが柳島、その島の総鎮守が当社である。

そんな訳で、往年度重なる大洪水大震災、先の大戦等で、文献等流失・焼失し現在の記録、古⽼の⾔い伝えの社殿に寄れば、創建は推古天皇御代（約千四百年前）、厩戸皇子（聖徳太子）作のご神像を御神体として祀る。永享年間に社殿崩壊し、戦乱の世にて修復進まず、大永年間、下総に住む沙門良博が主人である新田義興に相談し天文十年再建が叶う。その後も安政・大正の大震災に遭い社殿が崩壊すと記録されている。

現社殿は昭和二年九月に反対意見の根強いなか造営会が組織され、翌三年六月起工、四年十二月七日竣工、日本で初めての鉄骨筋コンクリートの社殿として神社史に名を刻むことになる。



布袋尊・龍眼寺

応永二（1395）年創建。

元禄年間（1688～1702）から萩寺とよばれ、広い寺域は美しく庭苑を作り、塵ひとつない清々しい寺域であり、国文学者落合直文の萩の歌碑と芭蕉の句碑がある。

また、境内には万治二年（1659）の庚申塔もあり、一見に値する。

西側には萩のトンネルや錦鯉と巨大な金魚の泳ぐ池もある。



番外編（亀戸天神社）

菅原道真公をお祀りする
当社は下町の天神さまとして
広く知れわたり、多くの
方々に親しまれております。

古くはご本社にあたります九州太宰府天満宮に対して東の宰府として「東宰府天満宮」、あるいは「亀戸宰府天満宮」と称されておりましたが、明治6年に東京府社となってより亀戸神社と号し、昭和11年に現在の亀戸天神社と正称いたしました。

（亀戸天神社公式ホームページより）

見どころ：太鼓橋（男橋） 太鼓橋（女橋） 御嶽神社
花園神社 紅梅殿 神牛 筆塚 五歳管公像
鸞の碑 松尾芭蕉句碑 燐寸塚 墨卵塔
太助灯籠 琴字灯籠

[詳細はここ](#)



亀戸七福神付近略図



七福神のご利益

- 恵比寿天

恵比寿天は商業の神様です。そのため、商売繁盛のご利益があるといわれています。

- 大黒天

財産の神様で、お参りする方の多くは財運福德のご利益を期待しています。

持ち物の打ち出の小槌からも、財運福德のご利益を読み取ることができます。

- 犀
毘沙門天

毘沙門天として有名なご利益は金運や開運、商売繁盛です。

毘沙門天は財福の神様としてあがめられた歴史があるので、お金に関するご利益は多くなっています。

- 弁財天

弁財天の名前に「財」という漢字が使われていることもあります。

一般的に知られているのが金運アップや商売繁盛でしょう。

- 福禄寿

名前に含まれていないご利益ですが、最も有名なのが「招徳人望」です。

これは人に慕われる人徳を得ることができるというご利益です。

- 寿老人

寿老人のモデルとなった人が1,000歳や1,500歳だったという言い伝えがあります。

寿老人はあくまでも伝説の人物ですが、その人物が長寿だったことから長寿をもたらす神様とされています。

- 布袋尊

布袋尊は財運や夫婦円満のご利益のある神様です。